



NO. 632  
 発行  
 2008・4月25日  
 国鉄労働組合  
 新潟地方本部  
 発行責任者  
 守橋久仁雄  
 編集責任者  
 教宣部



# 世界的連帯が必要

第2回『韓国と日本の労働運動を結ぶ全国連鎖行動』新潟集会在四月十九日十三時三十分より、新潟市『クロスパル新潟』で開催されました。県内から三十名が新潟集会に結集しました。加藤副委員長の司会で始まりました。

## 開会あいさつ 加藤副委員長

開会あいさつでは、加藤副委員長は



『講演では、日本の労働運動に厳しい指摘をすると思う。私たちは企業内労働組合を超えた運動を展開していかなければならない。この講演から多



くのことを学び明日からの発展につなげて』とありました。

## 主催者あいさつ 篠崎 浩和

主催者を代表して、国労長野地本の篠崎さんから『函館・仙台・東京、そして新潟と連鎖集会を行動してきた。一九四五年から六十年以上にわたって先生は労働運動を闘ってきた大闘士だ。アメリカ帝国主義と闘ってきた多くの弾圧から闘い、運動をつくってきた。韓国の労働運動について鉄道労組の顧問として労働運動を指導して

## 水戸行動 銀行



いる。今日の講演から韓国の闘いを学んでいく、連帯していく運動・階級的な闘いをつくっていきましょう』あいさつがありました。その後、李 寿甲(イ・スキャップ)氏より一時間半を越える講演がありました。講演は、韓国の労働運動について詳しくその当時の状況を説明していただきました。



その後、守橋委員長より、全体のまとめをしていただきました。約一時間半の講演でしたが、朝鮮の労働運動に対する、すさまじい弾圧やそれに対する闘いが、詳しく説明されました。

先生は、全ての左派勢力・労働組合の連帯を訴えていました。さまざまな問題・課題を乗り越え、統一していくことは、重要だと強く訴えていました。裏面に、講演の内容を特集しました。ぜひ読んでいただければと思っております。集会終了後、懇親会では、盛大に盛り上がりました。

## 守橋委員長 あいさつ



労働運動に対する情熱に感銘を受けた。米国への闘い、独立を目指しての闘いの報告があった。激しい弾圧に対して闘ってきた。日本労働運動にもあった。

韓国の鉄道労働者、7,000名の闘いが、運動を引っ張ってきている。鉄道労働者の果たす役割は韓国も日本も同じだ。7,000名のストが全国ゼネストへ拡大していった。国労もマル生の闘いがある。歴史があった、それと思いを重ねた。

国労つぶしがやられている。日本の中でも、誇り高く鉄道労働者が闘ってきた。

トンジー(同志)それが今日の交流会に感じられた。世界的連帯が必要だ。



# 朝鮮労働運動史 李寿甲氏

## 16時間の労働時間



### 日本からの独立闘争

今日は韓国の労働運動・闘いについて講演する。労働運動の先輩達が日本・米国と闘い、日本との闘いによって虐殺されたことを、ここで報告できることを地下に眠る先輩達も嬉しく思っていると思う。

一九一九年に国際共産主義連盟に参加し朝鮮労働運動がはじまった。朝鮮人労働者は日本の植民地支配の中で、国際的に見ても正当化されていなかったため弾圧があった。すさまじい拷問があったが、それに屈す



ることなく闘ってきた。朝鮮労働者は日本から独立することから労働運動がはじまると考え闘ってきた。解放から労働運動がはじまる。日帝の支配下では十六時間の労働時間・すさまじい労働だった。弾圧搾取が行われ、それが強くなればなるほど、労働運動・闘いが大きくなっていった。一九〇五年から四十年間すさまじい弾圧があった。しかし一九三一年から九二〇回のストライキが決行された。

### 侵略がはじまる

一九三一年に満州事変があった。侵略がはじまり、ここから労働者・人民などが連行された。日帝のすさまじい拷問・逮捕された。逮捕をまぬがれた労働者は地下活動から労働運動を闘ってきた。二十八箇所の刑務所に入れられていた。独立国家を達成することを思っていた。

### 独立国家建設へ邁進 人民が中心に座る

一九四五年日本は降伏し、その後、解放された。独立国家建設へ邁進した。労働運動の先輩達が第一線で独立国家をめざしていった。建設準備委員会で全国オルグへ。生産に労働者が携わるため、工場委員会を構成していった。復興のために労働者が直接経営した。全国的に人民委員会が発足した。

なぜ、こうした闘いをつくっていったのか？独立国家は人民が中心に座る。社会主義国家をつくること・それをめざすことが、人民共和国をつくることになる。工場委員会が経営そして人民が主人となることが国家建設の中心となっていた。



### アメリカによる 強制的支配へ

先輩達が先頭に立って自主民主国家の基礎づくりができていった。こうした闘いの中、マッカーサーがそれを踏みにじった。テロの強制的に解散させていった。日帝から解放されたが、米国による強制的支配・侵略がはじまる。そのためにもそれ以上に、すさまじい闘いがはじまる。その当時のことを思い考えて欲しい。当時を考えると怒りで体が震えるようだ。

### 十六の産別労組が結成

獄中闘争から解放されたが米国との闘いがあった。全国オルグ・十六の産別労組が結成された。全て結集しソウルで全評が結成された（一九四五年十一月）。

全評の労働者・農民・市民が闘い日米からの独立・自主独立国家を目指す。

### 米国は独立を無視した

米ソ共同委員会は、朝鮮の自主独立国家建設を協議していたが、米国は独立を無視した。ソビエトは独立を進めていたが米国は独立を認めようとしなかった。

共同委員会の決議を守るため全評は、闘ってきたが米国は全評に対しても弾圧・破壊してきた。この決議をつぶそうとしていた。米国は右翼を三万人動員したが、全評は五十万人が結集した。

全評労働者が主権を人民に戻せと訴えた。全国の人民が結集した。闘いの中で多くの労働者が銃殺された。



今回は、少し長くなってしまいました。私のメモ書きしたものを中心に、編集しましたので読みにくい部分があると思いますがよろしくお願います。

後半は、633号につながりますので引き続きお願いします。

(A・F)